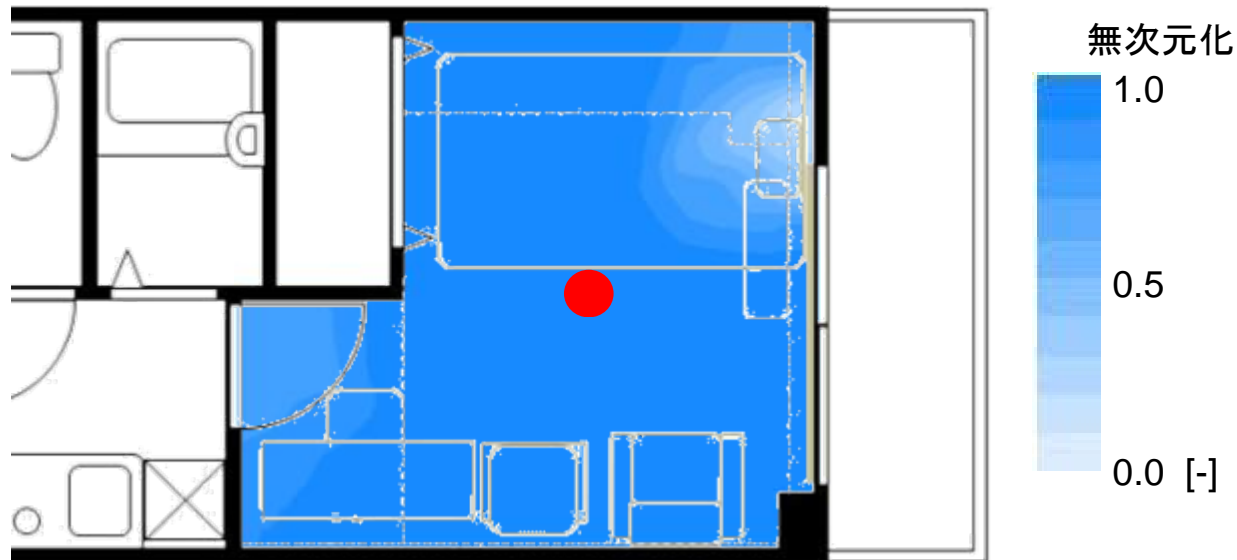


クレベリンゲル150g12畳居室の濃度分布

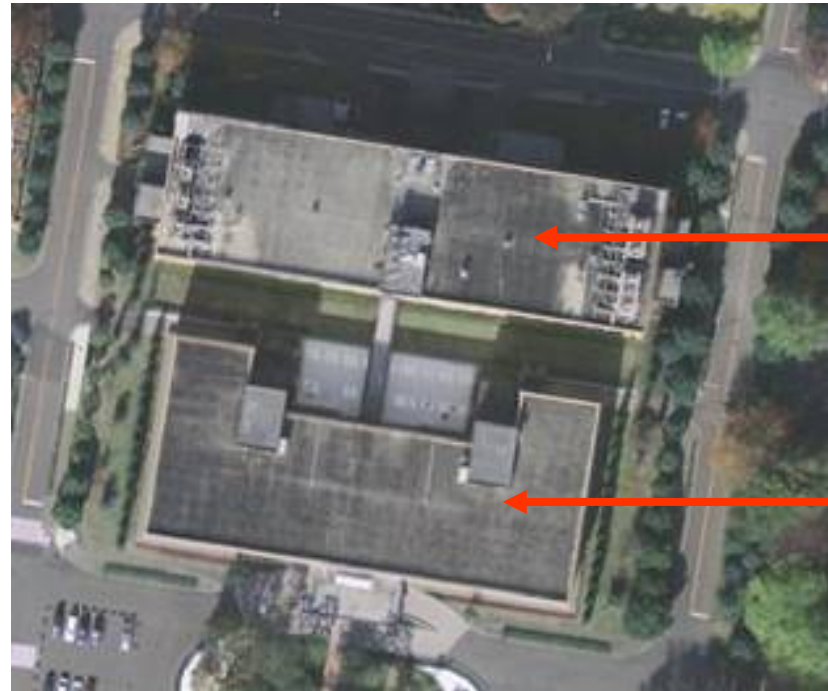
(空調停止時の二酸化塩素ガス濃度分布)



ゲル設置位置
(1.1mの高さに1個)

**室内全域でガス濃度は均一化した
また一ヶ月期間中 0.03ppm以下であった**

インフルエンザ様疾患罹患率の前向きコホート研究



非介入群
(442名)

介入群
(345名)

2つの建物のうち、片方の建物だけ全室に低濃度の二酸化塩素放出薬
クレベリンゲルを設置

介入期間:2009年1月19日～3月13日までの54日間

インフルエンザ様症状の定義:次の3項目をすべて満たすもの

- (1) 38.0℃以上の発熱
- (2) 咳および・または咽頭炎の存在
- (3) 医師の診察および臨床検査によっても、インフルエンザ以外の原因が確認されていない

二酸化塩素放出薬の介入とインフルエンザ様 症状患者数の比較

	介入群 (ガス濃度平均:0.01~0.02ppm)	非介入群
症状あり	8名 (迅速キット陽性2名)**	32名 (迅速キット陽性12名)
症状なし	337名	410名
計	345名	442名

二酸化塩素放出薬のインフルエンザ様症状に対する相対危険度 (relative risk) は
 $\text{relative risk} = (8/345) / (32/442) = 0.32$

**** P<0.05**

**二酸化塩素放出薬介入群はインフルエンザ様患者を
有意に低減した。**